

令和4年度

適性検査Ⅰ

9：00～9：45

注 意

- 1 問題は1ページから18ページにわたって印刷してあります。ページの^ぬ抜け、白紙、印刷の重なりや^ふ不鮮明な部分などが^{かくにん}ないかを確認してください。あった場合は手をあげて^{かんとく}監督の先生の指示にしたがってください。
- 2 解答用紙は二枚^{まい}あります。受検番号と氏名をそれぞれの決められた場所に記入してください。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙に記入し、解答用紙を二枚とも提出してください。
- 5 字ははっきりと書き、答えを直すときは、きれいに消してから新しい答えを書いてください。
- 6 文章で答えるときは、漢字を適切に使い、^{ていねい}丁寧に書いてください。

横浜市立南高等学校附属中学校

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校附属中学校

みなみさんとりかさんは、調べ学習で横浜について書かれたある本を見つけました。次の【文章】やあとの【会話】を読み、問題に答えなさい。

【文章】

都市の一般的な形成過程はなかなか複雑で、それぞれの地理的、歴史的な条件にも大きく左右されます。ここでちょっとおもしろいシミュレーションゲームソフト「シムシティ」というのを紹介しましょう。これはバージョンアップされるに従って複雑になってきましたが、最初のバージョンは、自分が市長になったつもりで、何もない土地に都市を建設するというものなのです。市長にはわずかな資金が渡されますが、その資金でまず発電所をつくります。そして、道路と住宅、その次には働く場である工場や買い物のための商業施設をというように、つぎつぎと都市の生活に必要な施設をつくっていくのです。資金は税金で、工場や商業施設が増えると税金が増えていきます。

このソフトでおもしろいのは、都市が大きくなるにつれて都市生活に必要な機能の種類や量が増え、それが相互に影響してさまざまな問題を引き起こして、解決を迫られていくことでした。たとえば、人口が増えると交通渋滞も増える、工場が多いと公害が発生する、大きな都市になると港湾、空港、レジャー施設が必要になる、というようにです。

横浜の場合には、日本経済の発展によって大きな課題を背負うことになりました。それは、東京に政治、経済、文化の機能が急速に集中していったことでした。

じつは、横浜にとって、高度経済成長による東京一極集中は、関東大震災や災害に匹敵するほどの大きな試練だったのです。戦争直後に横浜の中心部は連合国軍に接收されたのですが、それが解除されたのは1950年代に入ってからでした。1955年ごろから日本の経済成長は年間成長率10パーセントを超えるときもあり、高度経済成長期に移行しましたが、その当時の横浜の中心部は接收解除がようやく行われたものの、「関内牧場」といわれるほどに、何もない荒れた空地状態にあったのです。

都市機能として、道路や鉄道が十分に整備されていないところに、東京への機能集中がはじまり、横浜は、東京に通勤・通学する人たちのベッドタウンとしての役割が重くなりました。市内のいたるところに、虫食いの宅地造成が行われるスプロール現象といわれる開発が進み、人口は年間10万人も増える時期もありました。人口が増えることは、都市にとっては活気をもたらし歓迎されることもありますが、当時の横浜市役所は人口増にともなう小中学校の整備、水道や下水の整備、消防やバス路線

確保のための道路建設など、多忙^{たぼう}をきわめていました。

仮設のプレハブ校舎で、午前と午後に分けた二部授業、雨が降ればひざまでの水たまりができてしまう道路、1時間に1本しか来ないバスなど、当時は、市民にとって、あこがれのまち「ミナトヨコハマ」のイメージとはほど遠い生活環境^{かんきょう}でした。人口急増^{きんきゅう}にともなう都市基盤^{きばん}の整備は緊急^{きんきゅう}の課題だったのです。

横浜市役所では、このような状況^{じょうきょう}への対処^{たいしよ}をすすめる一方で、将来^{しょうらい}に向けて、バランスのとれた都市の骨格^{こっかく}をつくるために、1965年に「六大事業」と呼ばれる大改造計画を発表しました。

それは、横浜駅と関内地区に分断されている都市中心部機能の強化、良好な住宅環境を確保するニュータウン建設、工業団地と住宅を組み合わせた大規模な埋立^{だいきぼ うめた}て、市内の高速道路網^{もつ}、地下鉄建設、ベイブリッジ建設の6つの事業でした。これらの事業は、横浜市全体の中で、住宅、工場、オフィスなどを適切に配置し、高速道路や地下鉄で効果的に結ぶという戦略性をもっていました。埋立てや交通網は30年以上かけてほぼ計画どおりに実現しましたが、ニュータウンの形成は進行中ですし、都市部機能の強化はみなとみらい21計画へと具体化し、計画から約40年を経過した現在も進行中です。多くの人や企業^{きぎょう}、組織が集まっている都市はそう簡単に計画し、短期間に計画を達成できるものではありません。それでも横浜は、港^{かんとん}を軸として発展してきた歴史を大事にすること、無秩序な開発を規制して快適な住みやすい環境を確保すること、そして、時代の変化に対応できるように新しい機能を呼び込むこと、という基本的な戦略を生かしてまちづくりを進めているのです。

とくに、横浜都心を再生するみなとみらい21計画は、大きな注目を集めながら着実に進行しています。この計画は、港の機能と官公庁や企業などのビジネス機能^{※2かんこうちよう}が集まり、都市としての発展の基礎^{きそ}となった関内地区と、東海道線をはじめ、いくつもの私鉄やバス路線のターミナルとなり、交通や商業を中心にした機能が集まっている横浜駅地区の両方を、一体化しようとする計画です。みなとみらい地区には、かつて三菱重工の造船所や、旧国鉄（現在のJR）の貨物ターミナルであった高島ヤード^{みつびし}があり、一般市民が立ち入ることはできませんでした。

関内地区と横浜駅地区が分断されたままでは、横浜市の中心部に、都市にふさわしい業務や商業などの機能を十分に誘致^{※3ゆうち}することができません。働き、学び、買い物をする機能はますます東京に流出する可能性がありました。そこで、貨物ターミナルの廃止と造船所の本牧地区への移転^{はいし}を働きかけ、その跡地^{ほんもく}を中心に大規模な埋立^{あとち}てを

行って、^{かんない}関内地区と横浜駅地区を結びつける新しい都市中心部をつくることになりました。「みなとみらい」という名称は、^{めいしやう}市民からの公募で決まったものです。その名のとおり、^{しゆく}港としての歴史を軸にして未来に向かって^{はってん}発展するまちづくりをスタートさせたのです。

横浜ランドマークタワーの地下部分に、石造りのドックを残して活用したことも横浜としてのこだわりでした。みなとみらい地区という新しい都市計画のシンボルが横浜ランドマークタワーなのですが、建設の際にいったんは埋められた石造りのドックを、横浜港の歴史財産として^{ほぞん}保存するように、横浜市が、土地の所有者であり開発者でもある^{みつびし}三菱地所を説得したのです。

この石造りのドックは日本で最初のもので、1号ドックは、日本丸を^{せう}係留して公園の一部にそのままの形で保存し、2号ドックは、一度解体したあとに、中をレストランにして、再度大きな石を使って復元しました。そして全体をイベント広場「ドックヤードガーデン」として活用したのです。これによって、いつまでもこの場所が日本で最初に開かれた港であり、多くの船を建造した地であるという歴史の^{きおく}記憶が残ることになりました。

みなとみらい地区の^{せんたん}先端のパシフィコ横浜は、国際都市として必要な国際会議場、^{てんじじやう}展示場、ホテルを一体化したものです。海に開かれた横浜の伝統を示す国際コンベンション施設として、設計にも大きな工夫をしました。ホテルは帆を、^ほ国立横浜国際会議場は貝を、そして展示場は波をイメージしています。

また、前にお話ししたとおり、ランドマークタワーから海に向かって^{じよじよ}徐々に低くなるように、ビルの高さを規制して美しいスカイラインをつくりあげています。^{そうがんきやう}双眼鏡があつたら、海に面して建てられている帆の形のホテルの最上部を見てください。女神像が海を見つめている^{すがた}姿を見ることが出来ます。

はじめは、^{きぎやう}企業を集めることを基本に考えられたみなとみらい地区の建設計画でしたが、現在では、企業だけでなく、美術館やコンサートホールを軸に、シネマコンプレックス、^{えいざう}映像スタジオなどの文化芸術機能の^{ゆうち}誘致も計画されています。ホテルやレストランなどの商業施設も集まり、今ではつぎつぎと新しい機能を生み出す横浜の、未来に向けた「顔」として、多くの観光客をも呼び、^よ高層住宅に数千人が生活するまちとなっています。

2004年2月に開通した地下鉄みなとみらい線は、東京の^{しぶや}渋谷駅と横浜駅を結ぶ東急東横線と相互乗り入れで、横浜駅から^{もとまち ちゆうかがい}元町・中華街駅までの横浜都心部をつなぐ

便利な路線となりました。各駅のデザインは、その地区の個性や歴史を反映させており、従来の地下鉄の駅のイメージを大幅に変えるユニークなものとなって注目を集めています。

パシフィコ横浜の横にある大観覧車（コスモクロック21）は、1989年に横浜市政100周年を記念して開催された横浜博覧会のときに造られたものです。博覧会の終了とともに取り壊される予定でしたが、非常に人気があったのと、港周辺の雰囲気^{ふんい}に合っていたことから、その周辺の遊園地よこはまコスモワールドと一緒に楽しめるアミューズメント施設として位置を移して残されることになりました。すぐ横にある横浜ワールドポーターズは、輸入品を中心に扱っている商店や、シネマコンプレックス、スーパーマーケットなどの入った複合ビルで、若者に人気のあるスポットになっています。

1997年に行った横浜市民の意識調査によると、横浜のイメージは港であり、色で表すとブルーと答えた人が7割以上にのぼりました。自分の家から港が見えなくても、港周辺に出かけるのが年に1、2回でも、横浜市民は「ミナトヨコハマ」に住んでいるという意識をもっているというのです。1960年代に、そのミナト周辺に高速道路^{※5こうか}が高架で建設されるという動きがありました。横浜駅から桜木町、関内を經由して石川町の駅あたりまで、JR根岸線よりも高い位置に高速道路が建設されるという計画でした。経済的に見れば高架のほうが建設費は安いのですが、それでは横浜にとって最も大事なミナト周辺の景観が壊れてしまいます。そこで、国や首都高速道路公団に交渉して、桜木町から石川町にかけては、高速道路を地下に通すことにしたのです。この結果、みなとみらいから関内、石川町の中華街の入り口までは景観が保たれることになりました。

そして、それぞれの駅から山下公園までは、わかりやすいサイン（道案内標識）を取り付け、歩道には絵タイルを張って、それをたどって歩けば歴史的な建造物を見ながらミナトまで行けるような工夫をしたのです。

中華街では電信柱を赤く塗って、中華街らしいイメージをかもしだし、山下公園の向かいの狭い歩道は、ゆったりと歩けるように、建物を壁面後退させて広げました。県民ホールに沿ったいちよう並木の広い歩道を歩くときは、歩道の真ん中にある3センチ角くらいの小さな金属板を注意して見てください。道路と建物の敷地の境界線がしるしてあります。また、県民ホールと隣の産業貿易センタービルの広場は、同じようなデザインでペア広場として大きな空間をつくっています。

^{みなみ} ^{まなぶ} (南 学「横浜 交流と発展のまちガイド」より。一部省略や表記を改める、ふりがな
をつけるなどの^{へんこう}変更があります。)

[注]

- ※ 1 ^{せつしゅう} 接收……^{けんりょく}権力をもって強制的に取り上げること。
- ※ 2 ^{かんこうちょう} 官公庁…国や市区町村の仕事をする役所。
- ※ 3 ^{ゆうち} 誘致……学校や工場などの^{しせつ}施設をその場所に設けるように^{さそ}誘い^よ寄せること。
- ※ 4 係留……船などをつなぎ止めること。
- ※ 5 ^{こうか} 高架……橋や電線、鉄道などを高く^か架^{わた}け渡すこと。

【会話1】

りかさん：横浜は、今も発展はってんし続けている都市であることが分かる文章でした。
ところで、横浜はいつから発展したのでしょうか。

みなみさん：歴史の授業で、ペリーが来航したことをきっかけにして、1858年に結ばれた日米修好通商条約によって、横浜が開港したと学習しましたね。では、日米修好通商条約をもっと詳しくくわ見てみましょう。

【資料1】日米修好通商条約の一部

第3条

下田・箱館はこだてに加え、以下の港を開港する。

神奈川：1859年7月4日

長崎：同上

新潟：1860年1月1日

兵庫：1863年1月1日

りかさん：あれっ。横浜を開港するとは書かれていません。

みなみさん：そうなんです。この条約には神奈川を開港すると書いてありますが、実際に開港したのは横浜でした。当時、神奈川とは、東海道の※6宿場である神奈川宿の周辺のことを意味していました。アメリカは神奈川宿を開港場にするように求めてきたのですが、江戸幕府えどばくふは、開港場を神奈川宿ではなく、まだ小さな漁村だった横浜村にしたのです。

りかさん：そのようなことをしてアメリカと対立しなかったのですか。

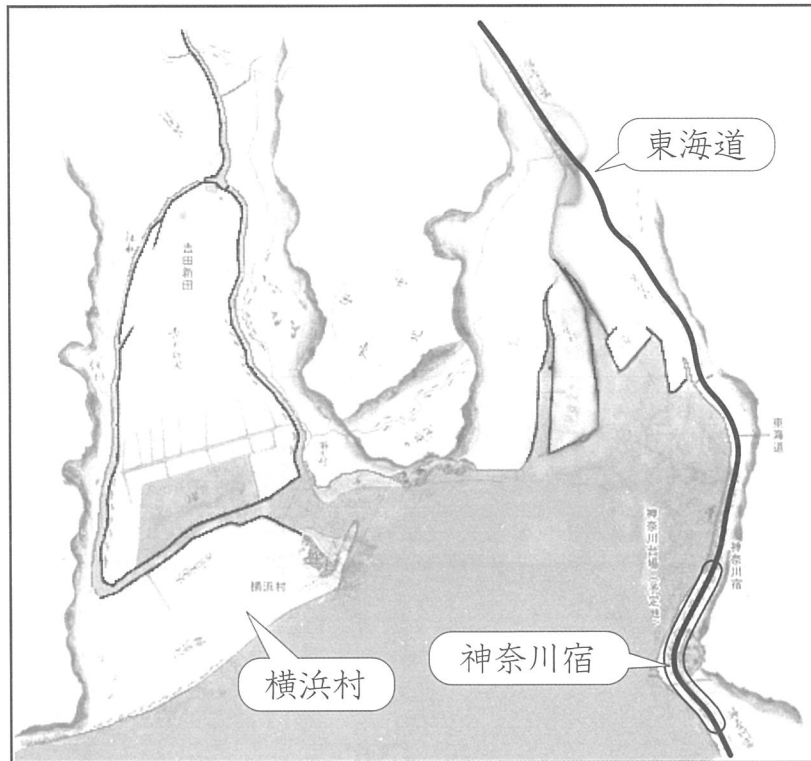
みなみさん：もちろん対立しました。しかし幕府は、横浜も神奈川の一部だから条約違反いはんではないという考えを押し通おして、結局開港場は横浜になりました。

りかさん：なぜ幕府はそこまでして、神奈川宿を開港場にしたくなかったのでしょうか。

みなみさん：それは、その当時の地図をしてみるとわかります。【資料2】は、1855年に描えがかれた神奈川宿と横浜村周辺の地図です。

※6 宿場・街道きやうだんの拠点。旅行者しゆくはくの宿泊・休憩きゆうけいのための宿屋や茶屋があった。

【資料2】 1855年に描かれた地図



おかだ なおし よしざき まさき たけだ しゅういちろう
(岡田直 吉崎雅規 武田周一郎 「地図で楽しむ横浜の近代」
をもとに作成)

みなみさん：この地図を見ると幕府が神奈川宿を開港場にしたくなかった理由がわかってきます。

りかささん：そういえば、ペリーが最初に浦賀に來航したときに、
「泰平の 眠りを覚ます 上喜撰 たった四杯で 夜も眠れず」
という歌がはやったというのを聞いたことがあります。たった4隻の
蒸気船でペリーが来ただけで、幕府はとても混乱したという内容で
した。その歌のことを思い出しました。

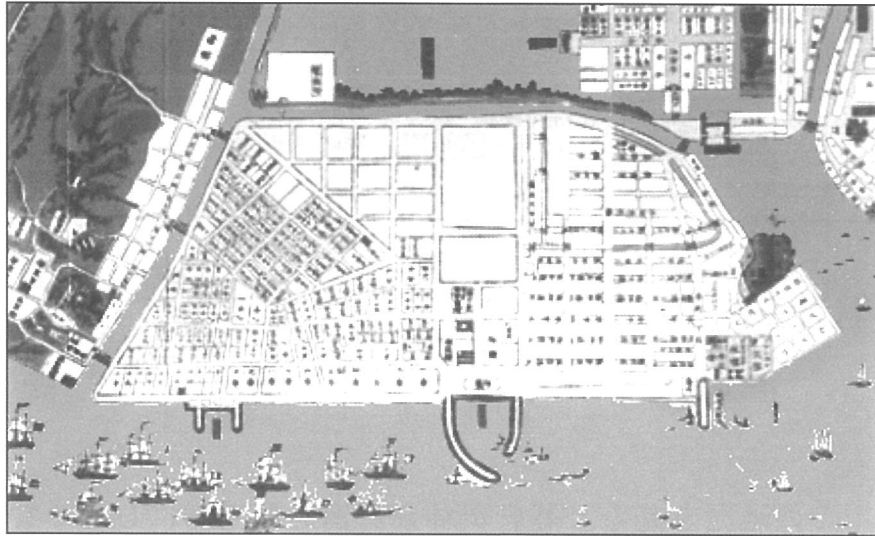
みなみさん：幕府が神奈川宿を開港場にしたくなかったのは（ 1 ）と考えたからなのです。

みなみさん：さらに幕府には開港場を神奈川宿ではなく横浜にしたかった理由があります。次の【資料3】の地図を見てください。この地図は、1868年に作られた地図なので、日米修好通商条約から10年後の横浜を描いています。何かに似ていませんか。

りかさん：陸地と川で切り離されているので、まるで長崎の出島みたいに見えますね。

みなみさん：そうなのです。幕府が横浜を開港場にしたかったのは（2）と考えたからなのです。

【資料3】 1868年に発行された横浜の地図



（「横浜明細全図」をもとに作成）

りかさん：明治時代の最初の横浜が【資料3】のような形をしていたのには驚きました。ところで、①この地図の出島のような部分は現在の地図に当てはめるとどこになるのでしょうか。今もその名残があるのでしょ
うか。なんだかとても気になります。

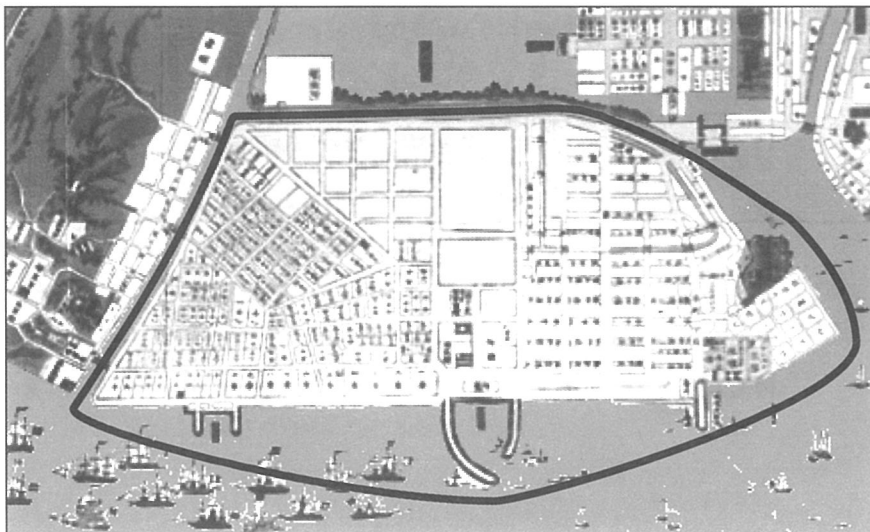
みなみさん：「関内」という地名を知っていますか。当時の「関内」には、外国人が住む開港場との間に置かれた関所があったので、開港場を「関内」、開港場の外を「関外」と呼んでいました。その名残が今も地名として残っています。また、横浜を取り囲むようにつくられた運河は、現在も川として残っているところもありますが、埋められて高速道路になっている部分もあります。このようなことをヒントに探してみるといいかもしれませんね。

問題1 【会話1】中の(1)と(2)にあてはまることばとして、最も適切なものを、次のア～カからそれぞれ一つずつ選び、記号を書きなさい。

- ア 周りを海や川に囲まれた地形のため、外国から入って来る人やものの監視がしやすい
- イ オランダとだけ貿易するため、キリスト教が国内に広がるのを防ぐことができる
- ウ 川に囲まれている場所だったため、外国の船が攻めてきたときに守るのが難しい
- エ 入り江が多い地形のため、外国から入ってくるものを船に乗せて運びやすい
- オ 東海道の宿場だったため、日本人と外国人とのかかわりが増え、大きな混乱が予想される
- カ 神奈川の海岸沿いは、たくさんの海産物がとれたため、漁民が開港に反対する

問題2 【会話1】中の①_____線について、次の【地図1】(【資料3】と同じ地図)の太線で囲った地域は、現在の地図に当てはめると、どの地域になるか。解答用紙の地図に当てはまる地域を線で囲いなさい。ただし、次の【地図1】と解答用紙の現在の地図が表している方位は同じとは限らない。

【地図1】



【会話2】

りかさん：【文章】に書いてあった「みなとみらい地区」は、私も家族と一緒に買い物に行ったことがあります。ランドマークタワーで買い物ができたり、臨港パークの芝生で遊んだりしました。その「みなとみらい地区」がしっかりと考えられた計画に基づいてつくられたとは知りませんでした。

みなみさん：実は、「みなとみらい地区」には、目に見えないところにも工夫が隠されているのですよ。

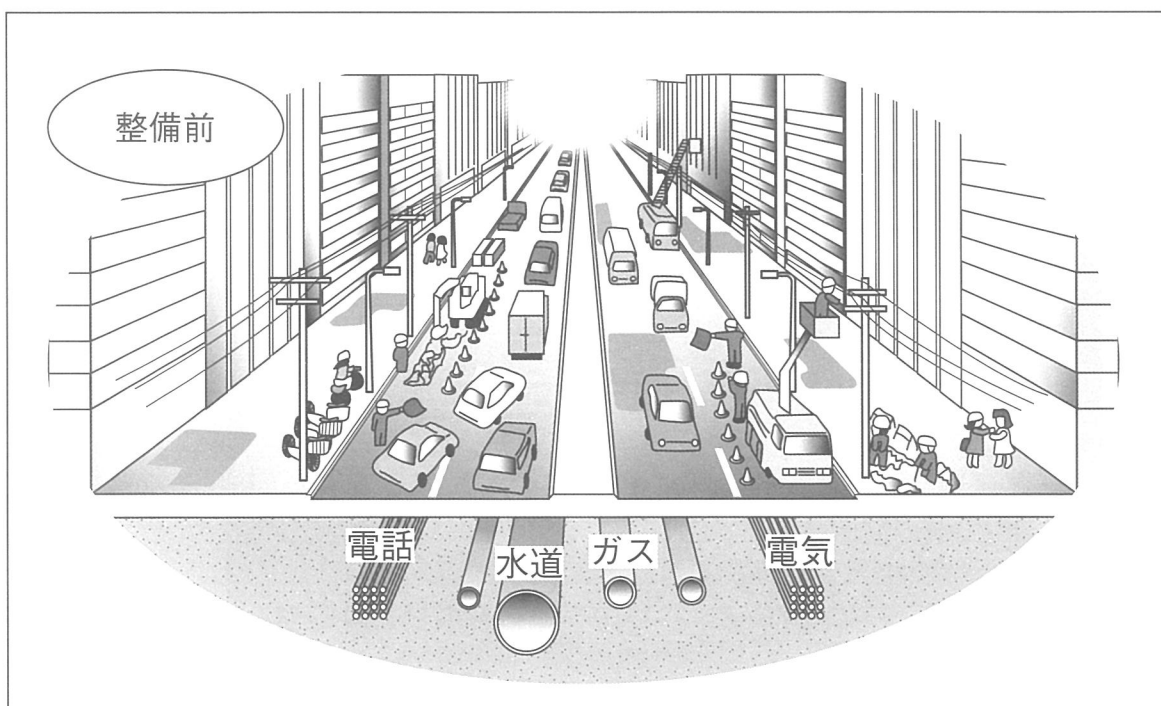
りかさん：それはいったいどのような工夫なのですか。

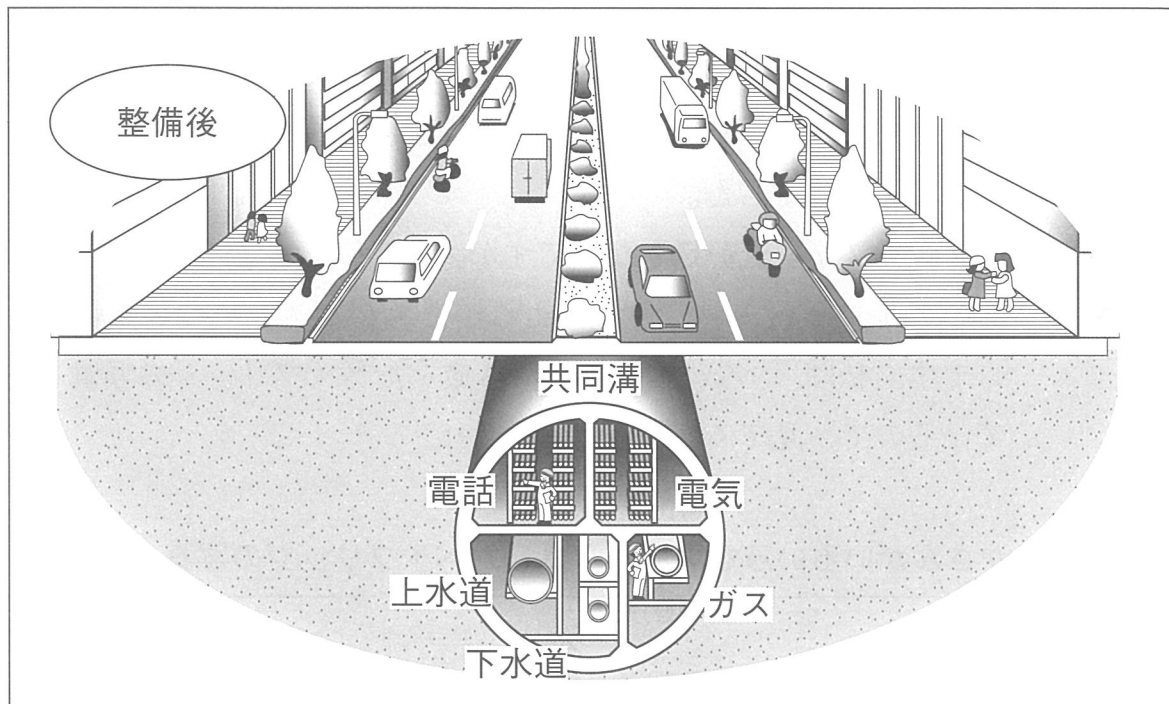
みなみさん：「共同溝」という言葉を聞いたことはありますか。「共同溝」とは、電話、電気、ガス、上下水道などの管や線を道路の下にまとめて収容するためにつくられたトンネルのことです。その「共同溝」が「みなとみらい地区」には張り巡らされているのです。

りかさん：ちょっとイメージができないので、教室にあるタブレット端末を使ってインターネットで調べてみます。

りかさん：とあるホームページを調べたところ、イラストが載っていました。なるほど、これが「共同溝」なのですね。

【資料4】りかさんがみつけた「共同溝」のイラスト





(国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所ホームページをもとに作成)

みなみさん：【資料4】を見て、共同溝にするとどのような利点があると考えられますか。

りかさん：【資料4】からは、(3)ということが利点として考えられると思います。

みなみさん：それ以外にも、地震などの災害にも強いという利点があります。

りかさん：「みなとみらい地区」は、地面の下という目に見えないところにも工夫がされているのですね。

問題3 【会話2】中の(3)にあてはまるものとして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

- ア 整備後は水道水がきれいになって環境にやさしくなる
- イ どのような町にでもすぐに整備することができる
- ウ 整備後は水を貯められるので、大雨の時に洪水を防げる
- エ 整備後は道路を掘りおこして工事する必要がなくなる

【会話3】

りかさん：^{わたし}私は、以前からベイブリッジが大好きだったのですが、【文章】を読んで、はじめて「六大事業」の一つとしてベイブリッジが建設されたことを知りました。

みなみさん：なぜベイブリッジが好きなのですか。

りかさん：あのアルファベットのHに見えるかたちがとても気に入っているからです。私は、いろいろな場所から撮ったベイブリッジの写真をもっているのです。見てください。

【資料5】りかさんがいろいろな場所から撮ったベイブリッジの写真

1



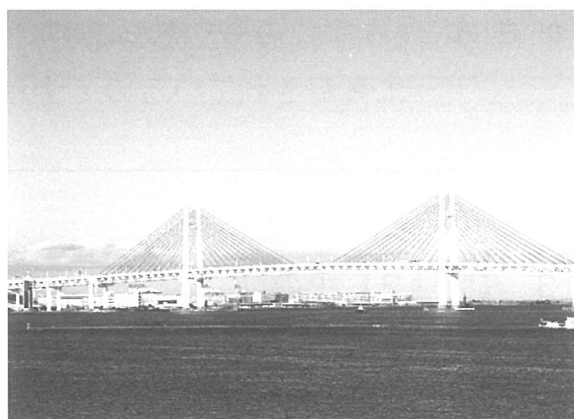
2



3



4

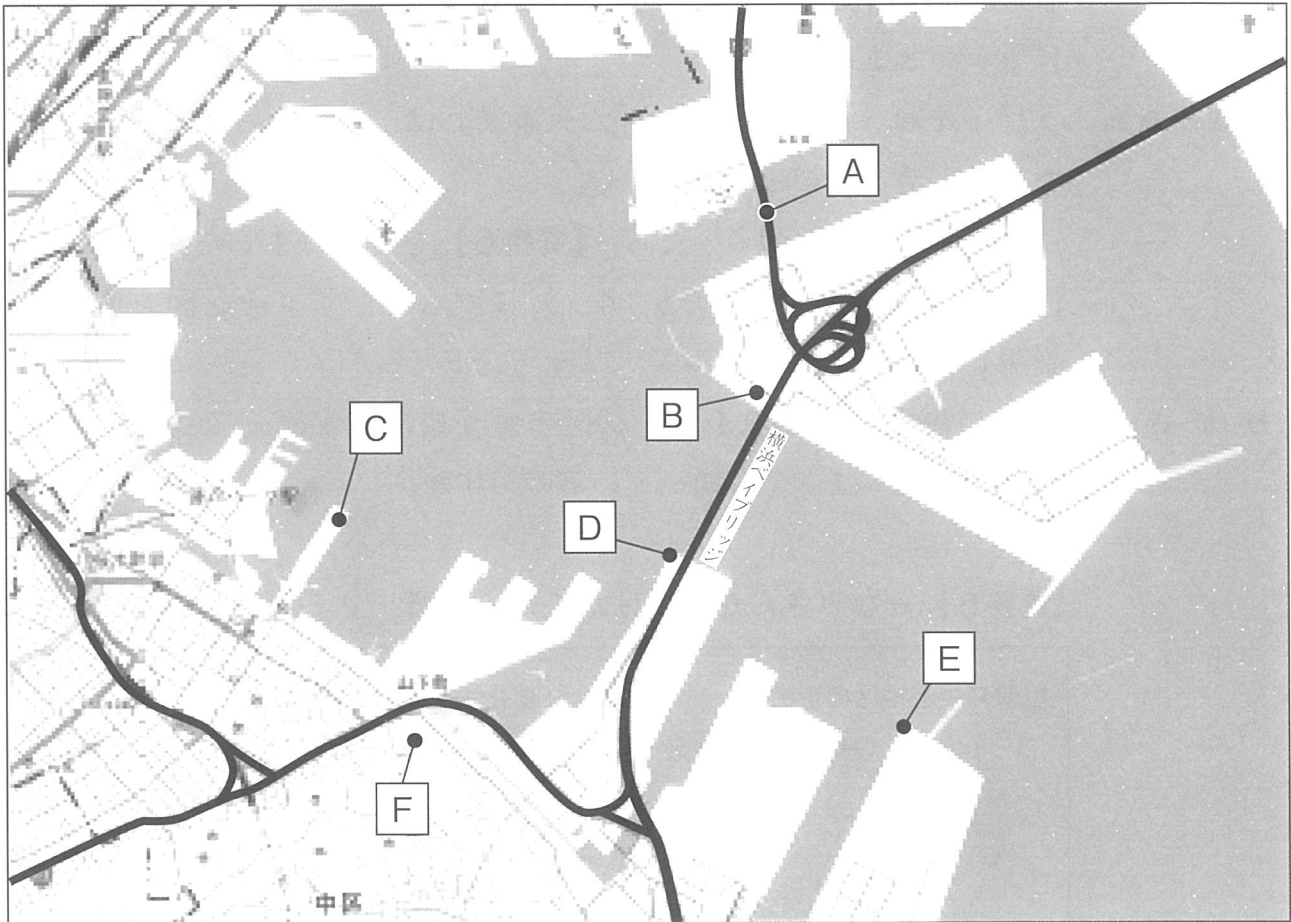


みなみさん：どの写真もとてもよく撮れていますね。ベイブリッジは、見る角度によってずいぶん違^{ちが}うように見えるのですね。

りかさん：はい。それがベイブリッジの魅^{みりよく}力だと思^{おも}います。

問題4 【資料5】中の1～4の写真は、次の【地図2】中のA～Fのそれぞれの場所で撮ったものですか。写真と場所の組み合わせとして、最も適切なものを、あとのア～クから一つ選び、記号を書きなさい。

【地図2】



(国土地理院 地理院地図をもとに作成)

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| ア | 1とB | 2とA | 3とF | 4とC |
| イ | 1とB | 2とF | 3とA | 4とC |
| ウ | 1とB | 2とA | 3とF | 4とE |
| エ | 1とB | 2とF | 3とA | 4とE |
| オ | 1とD | 2とA | 3とF | 4とC |
| カ | 1とD | 2とF | 3とA | 4とC |
| キ | 1とD | 2とA | 3とF | 4とE |
| ク | 1とD | 2とF | 3とA | 4とE |

【会話4】

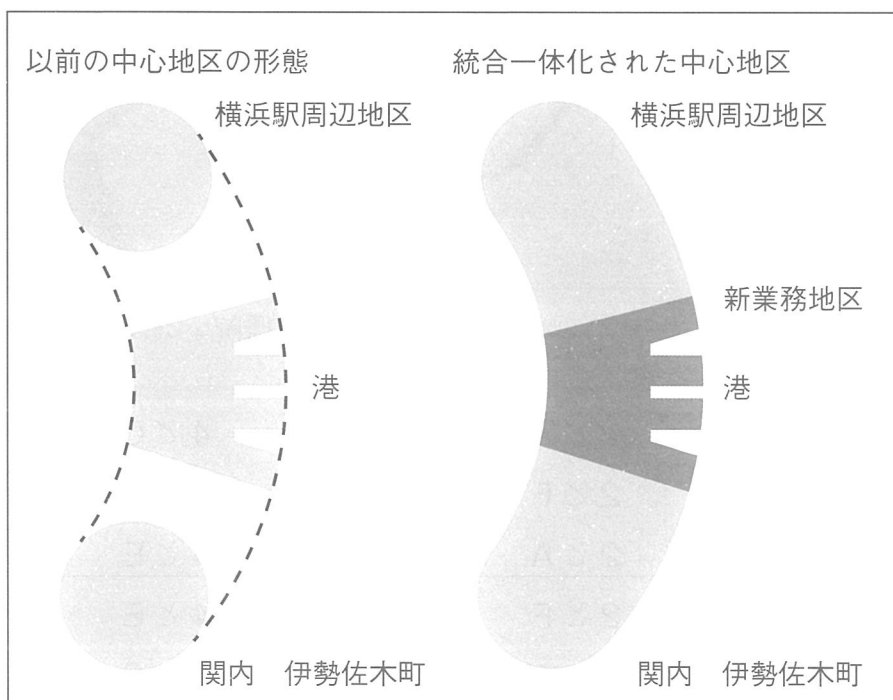
りかさん：^{わたし}私の友だちに、センター南駅の近くに住んでいる人がいます。その人の家に遊びに行ったときに市営地下鉄ブルーラインに乗りました。このことも【文章】に書いてあった「六大事業」に関わりがあることに気がつきました。

みなみさん：そうですね。そう考えると「六大事業」は、いろいろなところで私たちの生活と関わっていますね。

「六大事業」を調べていたら、【資料6】を見つけました。この資料は、「六大事業」の中の（ 4 ）について、イメージ図を使って説明したものです。

りかさん：確かに現在は、このイメージ図のように開発が進んでいますね。「六大事業」は、今も続いているのですね。

【資料6】 みなみさんが見つけたイメージ図



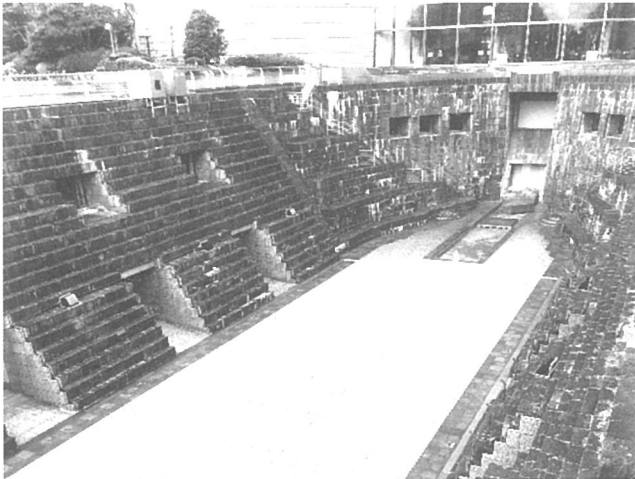
(横浜市教育委員会編「Yokohama Express 第5版」をもとに作成)

問題5 【会話4】中の（ 4 ）にあてはまる言葉を、【文章】の中から26字で見つけ、その最初の3字と最後の3字を書きなさい。

問題6 次の写真①、②の成り立ちや特徴を、【文章】をもとに、それぞれ横浜のまちづくりの「基本的な戦略」と関連させて、あとの【条件】にしたがって説明しなさい。

写真①

ドックヤードガーデン



写真②

桜木町から石川町にかけての高速道路



【条件】

- ・1枚の写真につき【語群】からキーワードを2つずつ文中に使うこと。
ただし一度使ったキーワードは他の写真で使えないこととする。
- ・それぞれ125字以上150字以内で書くこと。
- ・段落はつくりなく、1行目、1マス目から書くこと。

【語群】 キーワード

地下	石造り
歴史	規制

問題7 次の【資料7】は、りかさんが見つけた本の一部です。【文章】と【資料7】に共通する考え方を、あとの【条件】にしたがって書きなさい。

【資料7】

コスタリカは、カリブ海と太平洋に挟まれた、四国と九州を合わせたくらいの中央アメリカの小国ですが、ほかの熱帯林をもつ国(コスタリカには、雨林、乾燥林、雲霧林などのさまざまな熱帯林のバラエティがあるため総称して「熱帯林」という)と同じく1980年代までは、プランテーションやそのほかの開発のために森林をさかんに破壊してきました。しかし90年代に入り、熱帯林やその生物多様性こそ自国の戦略的資源であるとの再認識のもと、保全を重視した政策に転換をはかりました。地球の0.03パーセントという狭い国土ながら、地球上の生物の5パーセント以上を占めるといふ、きわめて生物多様性の高い自然の貴重さに気づいたからです。

その施策の一つは、国家事業としてのエコツアー(ツーリズム)の推進でした。エコツアーとはいふまでもなく、すぐれた自然を資源に、自然や生態系に負荷をかけることのない観光事業で旅行客を呼び込み、経済的自立をはかるとともに、その収益を通じて地域の自然や文化の維持に再投資しようとするものです。エコツアーを売り物にしようとするれば、自然を壊してしまつては元も子もありません。国土の25パーセントが保護区に指定され、自然が積極的に保全されています。

今日では、バナナやコーヒーなどの物産の貿易額を抜いて、外貨収入の第一位がエコツアー収入だということです。

もう一つの国家戦略が、「コスタリカ国立生物多様性研究所」による生物資源の探査です。植物、昆虫、菌類をはじめ、すべての生物を網羅的に収集、分類し、その生物資源としての可能性を探査しているのです。現在、欧米の製薬会社などの数社と契約を結び、化学物質とDNAの探査、スクリーニングを行っています。すでにヘルペスに有効な物質などいくつかの成分がスクリーニングされているということです。

(豊島 襄「ビジネスマンのためのエコロジー基礎講座 森林入門」より。一部省略やふりがなをつける、表記を改めるなどの変更があります。)

【条件】

- ・30字以上40字以内で書くこと。
- ・段落はつくりなく、1行目、1マス目から書くこと。

[注]

- ※ 7 プランテーション…熱帯・^{あねったいちいき}亜熱帯地域で綿花・ゴム・コーヒーなどの一種だけを大量に栽培する経営形態。
- ※ 8 生物多様性……いろいろな生物が^{そんざい}存在している様子。
- ※ 9 施策……行政機関などが、計画を実行すること。またその計画。
- ※ 10 収益……もうけを手に入れること。
- ※ 11 網羅……かかわりのあるものすべてを残らず集めて取り入れること。
- ※ 12 スクリーニング……ふるいにかけること。^{せんぱつ}選抜。選別。
- ※ 13 ヘルペス……^{ひふ}皮膚や^{ねんまく}粘膜に^{かんせん}感染して引き起こされる病気。

適性検査Ⅰ 解答用紙

※には何も記入しないこと

問題 1	
(1)	(2)

※

問題 2		
<p>地図の記号</p> <p>— 鉄 道 駅</p> <p>— 高速道路</p> <p>(国土地理院 地理院地図をもとに作成)</p>	<table border="1"> <tr> <td>※</td> </tr> </table>	※
※		

問題 3

問題 4

※

問題 5							
最初の 3 字	最後の 3 字						
<table border="1"> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>				<p>～</p> <table border="1"> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>			

※

受検番号	氏 名

※

適性検査Ⅰ 解答用紙

問題6

写真①

受検番号
氏名

※には何も記入しないこと。

写真②

問題7

※12	※11	※10	※9	
-----	-----	-----	----	--

※8	※7	※6	※5	
----	----	----	----	--

※4	※3	※2	※1	
----	----	----	----	--

※

適性検査Ⅰ 解答用紙

※には何も記入しないこと

問題 1	
(1)	(2)
才	ア

※
28

問題 2

(国土地理院 地理院地図をもとに作成)

地図の記号

鉄 道
 駅

高速道路

※
16

問題 3
工

問題 4
イ

※
24

問題 5

最初の 3 字	～	最後の 3 字
横 浜 駅		の 強 化

※
12

受検番号	氏 名

※
80

適性検査Ⅰ 解答用紙

問題6

写真①

受検番号
氏名

※には何も記入しないこと。

125

150

省略

写真②

125

150

省略

30

40

省略

問題7

※

120

※1

※2

※3

※4

※5

※6

※7

※8

※9

※10

※11

※12